

# いざというときに間に合わない可能性もあり、十分な議論が必要 新潟県、UPZ外における安定ヨウ素剤の調達方法を変更

新潟県内における安定ヨウ素剤の備蓄場所・備蓄数量についてのデータをこのほど入手しました。たぶん、県の地域防災計画などにも記載されているものと思われる。このデータを参考にしつつ、上越市内の安定ヨウ素剤の備蓄状況について、現地で説明をしてもらう活動を始めました。20日は、吉川区総合事務所と大島区総合事務所で備蓄状況を見せていただきました。備蓄場所については、防犯対策や適正な温度管理などが求められますが、きちんと行われていました。

市役所原子力防災対策室によると、新

潟県は、今年の4月から安定ヨウ素剤の備蓄方針を一部変更するため、3月8日に、長岡市、上越市、十日町市、魚沼市の担当者を集めて説明会を開いたとのこと。記載の市町村以外でも説明会が開催されたかどうかは確認できていません。説明内容は、UPZ（原発から5～30kmの地域）外における安定ヨウ素剤の調達方法の変更が中心です。これまで県が全て購入していたものを、変更後は、国家備蓄、近隣県からの融通、県購入を組み合わせる調達としています。

国及び今後の県の備蓄量についてです

が、国は全国を5つのブロック（北海道、東北・関東、中部、中国・四国、九州）に分け、5か所の安定ヨウ素剤集積所に備蓄することです。新潟県に関しては、県がこれまで備蓄していた量のうち、錠剤200万錠、ゼリー剤15万包を国が備蓄することになる見通しです。県庁に保管している50Km圏外の市町村の安定ヨウ素剤1回分については、国の備蓄数量を差し引いた分を備蓄していく方針といいます。

緊急時の配送については、国備蓄分は内閣府が担当し、県備蓄分は県が担当し、それぞれ、市町村または各地域振興局に配送するとしています。

どうあれ、原子力発電所で過酷事故が発生した場合に、放射性物質が来ないうちに服用できない可能性があります。変更後の体制でいいのかどうか、今後、しっかり議論していく必要があります。

## 上越市内における安定ヨウ素剤の備蓄場所・備蓄数量

市町村名	備蓄場所	錠剤（錠）	ゼリー剤（包）	
			32.5mg	16.3mg
上越市	柿崎区総合事務所	19,600	290	0
	吉川区総合事務所	8,500	90	0
	大潟区総合事務所	1,200	30	0
	大島区総合事務所	400	10	0
	浦川原区総合事務所	100	0	0
	市役所木田庁舎	200	0	0
県	上越保健所	389,000	0	0
総計（全県）		6,183,975	29,100	9,660



（写真は安定ヨウ素剤の錠剤です）



【イケマ】キョウチクトウ科のつる性の多年草。漢字で「牛皮消」と書きます。初めて見たとき、すぐにガガイモの仲間だと思いました。名前まで知ったのは今年7月です。花期は7月～8月、花弁は淡緑色、つぼみのときはマンマルです。花言葉は「怖いもの知らず」。写真は7月11日、吉川区川谷にて撮りました。

## 体験談コーナーが充実 今年の上越市平和展

高田図書館で開催中の上越市平和展を見ました。今年の展示は、市内の戦争体験者による体験談コーナーが設置されたこと、丸木俊と位里両氏の制作した「原爆の図」が展示されたこと、ウクライナの実情を伝える写真展示があることなどから注目されています。

私としては、戦争体験を後世に伝える展示に目を奪われました。登場したのは、山口平治さん、川上紀美栄さん、平田真義さん、新保啓吉さん、米山謙三さん、高原重久さん、石塚洋子さん、横瀬和夫さん、平野榮子さんの9人。この人たちの証言動画を撮り、その要約を展示してありました。9人のうち3人は面識のある人だということもあって、興味深く読みました。

米山さんの黒井での空襲体験は、数年前、マナの声でお聴きしています。

川上さんは諏訪地区の人でしょうか、小さなころにお父さんを戦争で失い、お母さんの苦勞を目にしてきたことを切々と語っておられる姿が切なかったです。



# はしづめ法一の活動レポート

**No.2070 2022.7.24**  
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
 Tel 025-548-3628  
 通じないときは 090-5392-1961  
 E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp  
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら  
  
 橋爪法一 検索

# 春よ来い

## 第七一七回

### 認知症テスト

ベッドに横たわり、点滴を受けているときに隣の診察室からA先生と高齢の女性との会話が聞こえてきました。

「おばあちゃん、きょうは何月何日ですか」

「七月十一日です」

「はい、その通りです。私たちがいるここはどこですか」

「病院です」

「どこの病院ですか」

「中央病院？ あっ、労災病院かな」

ここまで聞いて、思い出しました。この設問は十数年前、親父を犀潟の病院に連れて行った時のものと同じだったのです。

「ああ、この人もうちの親父と同じ病気のかな」そう思いました。先生と女性とのやりとりは続きます。

「そうねえ、ここも病院だからいいことにしましょう」

「では何曜日かな」

「火曜日です」

「ううん、だいたいそんなところかな」

「じゃ、次に3つの言葉を言います。あとで聞きます。ゆっくの言いますから、しっかり覚えてくださいね」

「……」

「はい、いきますよ。サクラ…ネ…電車…覚えてくださいね」

「……」

「では、聞きますよ。最初に私が言った言葉は何ですか」

「サクラ」

「はい、正解です。では次はね」

「……」

言葉はなかなか出てきません。私とは壁ひとつへだてているので、実際には見えないのですが、女性が一生懸命思い出そうとしている様子がよく伝わってきました。そして、苦笑してしまいました。

じつは、私も一個目の言葉はすぐに思い

出せたのですが、一個目も三個目も出てこなかったからです。

「はい、次の言葉はネ」でした。おばあちゃん、ネコ、知ってますよね。かわいいもんね」

「……」

この後もやり取りが続き、最後は野菜の話になりました。

「では、知っている野菜の名前、できるだけ言ってみてください」

「ブロッコリー、大根、ナス……」

次々と出てきても良さそうなのですが、これもなかなか出てきません。かくいう私も出てきませんでした。正直言って、ここに書いた野菜の名前も実際はどうであったか、あまり自信はないのです。

今月十日の夜、急に左手の動きに違和感を持ち、翌日、私は市内のある脳外科医院で診察してもらいました。

MRI検査や血液検査をもらった結果、異状はありませんでした。これでひと安心したのですが、この医院で点滴をもらっているときに聞いたやりとりを思い出し、自分のことも心配になりました。

この医院でA先生と女性が交わっていたことは長谷川式という認知症テストのひとつでした。そこでの先生の質問に答えられないものが私にもいくつもあった。ということ、私自身も始まったのかも知れない、そう感じたのです。

私の父は、七〇歳を過ぎてても頑張り続け、百姓の仕事は私よりもはるかに多くできました。でも七〇代半ば頃から体調を崩し、一気に認知症が進みました。

考えてみれば、その父の年齢まであと何年もありません。どんな病気でも、早期発見、早期治療が大事だと言われています。自分の体力などを過信せず、しっかりと健康チェックをしたいと思います。それは亡き父への恩返しにもつながるはずだから。

## マリキータと仲間たちコンサート



旧第四銀行高田支店の建物、高田まちかど交流館で17日、「マリキータと仲間たちコンサート」が行われました。会場には私が日ごろお世話になっている人も何人も参加されていてびっくりしました。

マリキータの演奏、この日は11人のメンバーが勢ぞろいでした。首を少し傾けて演奏する人、カが入るときは体を沈める人がいるなど、特徴が見えて面白かったです。もちろん、演奏も。

マリキータの定期的なコンサートには必ず他の音楽グループも加わります。6回目のこの日は、「勝手にがズレレ上越」のみなさんが自前で用意されたカラ

フルな衣装をまとい演奏や踊りを披露してくださいました。初めて聴きましたが、こんな素敵なグループもあったんですね。そして圧巻は2つのグループのジョイントです。「コーヒールンバ」「花祭り」の演奏は、会場にいるすべての人たちが踊りだしたくなるような雰囲気がありました。



## 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月13日(水)	7月20日(水)
上越南消防署	0.047	0.057
上越北消防署	0.040	0.043
新井消防署	0.047	0.053
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.040	0.040
名立分遣所	0.050	0.057
高士分遣所	0.047	0.047